

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

丹波市立新井小学校

1. 調査について

- 【目 的】 ①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育成果と課題を検証しその改善を図る
②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる
③上記の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- 【実施日】 令和6年4月18日（木）
- 【対 象】 新井小学校6年生
- 【内 容】 国語、算数
児童質問紙（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面など）
- 【その他】 あくまでも一つの調査の結果から推し量れる学力の一部であり、記述によるテストでは測れない能力や態度、個性を子どもたちは有している

2. 学習状況調査結果より

国語

- 【成 果】 ・条件を満たしながら自分の考えを書く力
・主語と述語の関係を正しく捉える力
・物語文において人物像や全体像を具体的に想像する力
- 【課 題】 ・目的や意図に応じて複数の資料を活用し、関連づけて考える力
・情報と情報を関連づけて整理し、自分の考えを伝える力
・理解した内容を活用する力
- 【改 善】 ・ICTの思考ツールにまとめたものを、子ども同士でねらいに沿って吟味する
・言語事項の確実な習得のために教科書巻末を活用する

算数

- 【成 果】 ・基本問題を解く力
・立式したり、データを正しく読み取ったりする力
- 【課 題】 ・既習事項を活用し、効率的に解を求める力
・題意を正確に読解する力
・複数の情報から必要な情報を選択し、問題を解決する力
- 【改 善】 ・算数言語を用いて理由を説明（証明）する授業を展開する（語彙力）
・考えの根拠となる資料を選択し、結び付けて考える



今後の取組

- ① 週末タブレット学習の実施
・eライブラリを活用し、読解型の問題を自力解決する機会を増やす
- ② 気づきを書き出す「ふきだし」学習の導入と学習後の「ふりかえり」の継続
・自分の考えや変容を記録する
・自分の考えをまとめ、表出する時間を確保する

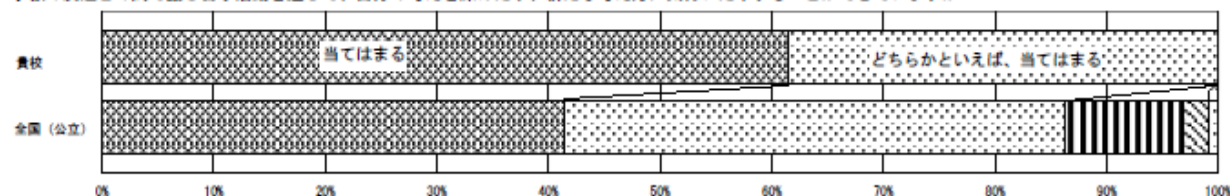
児童質問紙



【成 果】

- ① 自分に良いところがあると思う児童の割合は全国平均よりかなり高く、全ての児童が人の役に立ちたいと思っている
- ② 学習で分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげている
- ③ 学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりしている

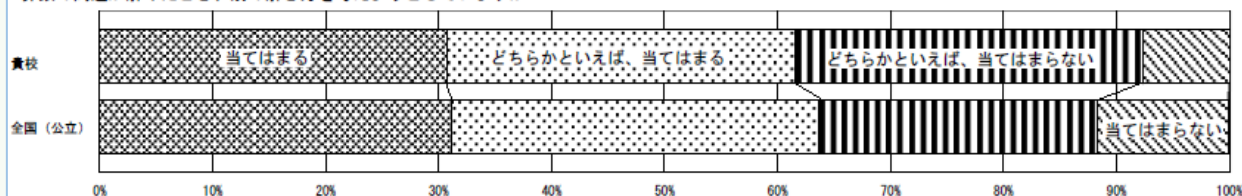
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



【課 題】

- ① 算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとする割合が低い
- ② 新聞を読んでいる児童が少ない

算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか



【分 析】

ほとんどの質問において肯定的回答が多い傾向にあり、物事を前向きに受け止め、自己有用感を持ちながら学校生活を送っている。しかしながら、算数では、問題解決後に別解を求める児童は約60%と低い傾向にある。

児童がさまざまな事象に知的好奇心を持って取り組み、多角的・多面的、複合的な視点で物事を考えることができるようになるとともに、児童が主体的な態度で学ぶことができるよう、授業をはじめ、教育活動全般において工夫・改善が必要である。

今後の取組

- ① 自己有用感を高める
 - ・自分の良さや個性に気づく（自己理解の時間を確保、認め合う学級づくり）
 - ・自分の意見が持てたり、言えたりする（自己決定の尊重、縦割り班活動の充実）
- ② 知的好奇心を持って、主体的に学ぶ機会の充実を図る
 - ・個の目標達成のため、個に応じた学びを協働的な学びと結び付けで行う（自由進度学習）
 - ・コミュニケーションや様々な体験を通し、考えを広げる活動を行う（体験活動の充実）

おわりに

子どもたちは「**未来を創る** にこ・はき・どん」を合言葉に元気に生活しています。今年度の全国学力・学習状況調査の結果をうけ、自分の未来を創っていくためにも、基礎学力の定着はもとより、チャレンジ精神や探求心、友だちと学び合う等の意欲の向上が大切であると考えています。また、学力の向上にはその基盤としての自己有用感を養うことも、同様に重要です。

今後も引き続き、一人ひとりの居場所づくりや、一人ひとりが活躍する場を保障するなど、本校で大切にしている自己有用感を育てる取組を充実させながら、学校・家庭・地域が連携し、好奇心をもって、主体的に学ぶ児童の育成をすすめてまいります。